

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復師学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	基礎柔道整復学・各論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	第2校舎201
担当教員	澤 卓実	実務経験と その関連資格	専科教員(平成22年～現在に至る)、認定実技審査員(平成29年:整復実技) 講道館柔道初段(平成29年)、附属接骨院(平成19年～平成26年:柔道整復業務に業務)			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>臨床でよく目にする鎖骨、肩甲骨、肋骨骨折や頸部の軟部組織損傷などに関する損傷の発生機序、症状、施術方法、治癒経過、予後について学習し、各損傷について、柔道整復師の施術範囲の鑑別や適応の判断や応急処置について理解し、各損傷に対する施術の適応の判断ができ、適応となる損傷について適切な施術を行えるようになることを目標とする。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期末試験:90% ・各項目ごとの小テスト:10% 						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復学・理論編(改訂第6版:南江堂) ・柔道整復学・実技編(改訂第2版:南江堂) ・標準整形外科学(改訂第12版:医学書院) 						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>講義の内容確認の為、次回講義開始後、10分間を前回の講義復習時間とし、教科書、配布プリントの内容を中心に復習し、各項目ごとに小テストを実施。 学習したことを定着させる為、必ず毎回の講義範囲を復習すること。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>1年生の前期で総論が終了し、後期から柔道整復学各論となります。解剖学の骨筋の復習や機能解剖を学習し、骨損とは何か、軟部組織とは何かなど構造学的に学び、外傷である骨折、軟部組織損傷とはなにかを理論的に学習していき、柔道整復理論は暗記ではなく理屈を考え学習していきましょう。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復理論編・実技編)、配布プリント		
	各コマにおける授業予定	1-2. 頸部の損傷 A・頸椎の機能解剖 B・頸椎の骨折				
第2回	授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておく	
	各コマにおける授業予定	C・頸椎脱臼 D・頸部の軟部組織損傷				
第3回	授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておく	
	各コマにおける授業予定	E・注意すべき疾患				
第4回	授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておく	
	各コマにおける授業予定	1-3. 胸・背部の損傷 A・胸・背部の機能解剖 B・胸部の骨折				
第5回	授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておく	
	各コマにおける授業予定	C・胸椎の骨折 D・胸椎の脱臼				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	E・胸・背部の軟部組織損傷 F・その他の疾患 G・注意すべき疾患		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	1-4. 腰部の損傷 A・腰部、仙骨部の機能解剖 B・腰椎の骨折		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	C・腰椎の脱臼 D・腰部の軟部組織損傷		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	E・その他の疾患 F・注意すべき疾患		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	2-1. 鎖骨部の損傷 A・機能解剖 B・鎖骨骨折①		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	B・鎖骨骨折 C・鎖骨の脱臼①		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	C・鎖骨の脱臼② 2-2. 肩関節部の損傷 A・機能解剖		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	B・肩甲骨骨折		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復理論編・実技編)、配布プリント	後期全講義の復習をすること
		各コマにおける授業予定	後期講義の復習①		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ 理解度の確認をし、各項目ごとの発生機序から後療法まで理解できている	教科書(柔道整復理論編・実技編)、配布プリント	後期全講義の学生理解度を確認する
		各コマにおける授業予定	後期講義内容の学生の理解度の確認をする		